

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300189	事業の開始年月日	平成26年4月1日	
		指定年月日	平成26年4月1日	
法人名	株式会社保健科学研究所			
事業所名	グループホームうめの木園			
所在地	(〒250-0013) 神奈川県小田原市南町2-3-34			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成27年3月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者及び家族の意向を尊重し、全スタッフが明るく、過ごしやすい環境作りを目指します。又、お誕生日会やお花見、納涼会、敬老会、クリスマス会等、季節にあった行事をスタッフが企画し、利用者、家族全員で楽しめるような会にしたいと考えています。
---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年3月31日	評価機関 評価決定日	平成27年4月30日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b></p> <p>◇充実した医療体制とモニタリングシステム 内科医の往診が月2回、歯科医が毎週、看護師が毎週訪問して利用者の健康管理に当たっており、また、ケアプランの実施状況をきめ細かくモニタリングしてケアを適切に維持する体制がある。</p> <p>◇積極的な散歩などの外出支援 近隣に小田原城址と小田原文学館の公園があり、季節を感じながら日常の散歩をし、また、箱根、平塚市の七夕祭り、湘南平、寒川神社までドライブをして気分転換をするなど、利用者の生活に変化を持たせている。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b></p> <p>◇利用者ごとのケア項目に即したモニタリングシート 「ケアプラン実施状況とモニタリング」の観察記録シートに、利用者ごとの重要なケア項目について、実施と目標達成状況、ケアプラン変更の必要性などを毎日チェックして、月末に問題点と対策を総括している。また、この結果をベースに毎月のケアカンファレンスを開催している。</p> <p>◇利用者の希望を反映した多彩なメニュー 利用者の希望を反映して、カレーの日、麺類の日、パンの日を毎週設けてメニューに変化を持たせ利用者に喜ばれている。</p>
--

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームうめの木園
ユニット名	さいかち

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業部理念をもとに全スタッフが実践につなげている	・理念は「利用者の人格・その人らしさ・自立、社会参加」をキーワードとし、職員は朝夕の申し送り時やユニット会議で唱和し、確認し合っ て実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の近隣の人とも出会ったら挨拶を交わす等、各スタッフが地域の一員であるという自覚のもと働いている。	・自治会に加入しており、利用者はお祭りやマラソン大会など地域行事の見学に参加している。 ・ボランティア受け入れを目指して、社会福祉協議会等に申し入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各利用者、その家族又は新規の見学者等に認知症の人の理解や支援の方法を説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者に活動状況を報告し、質問や意見を取り入れサービス向上に繋げている。	・会議は2か月ごとに開催し、地域のグループホーム管理者、家族、地域包括支援センターの職員をメンバーとしている。 ・事業所の活動報告、家族の要望（外出や相談する機会を多くなど）を聞き運営に反映している。	・運営推進会議のメンバーに地域の代表に参加を要請し、地域との連携の推進が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の介護保険課や地域包括に事業所での出来事を相談し、早期の対応を心がけている。	・介護保険手続きなどで、市の職員と常時連携している。 ・介護関連の情報取得、介護に関する相談、グループホーム連絡会での意見交換などでも、市の職員とは協力関係がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアを実践している。	・利用契約書に身体拘束禁止の方針があり、職員は社内研修で学び、ユニット会議で拘束事例について話し合っている。 ・個別の具体的事案については、その都度市役所職員に確認して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明し、不明な点や疑問点を訪ねるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で事業所の現状を理解して頂く場を提供したり、来園した時に、意見や質問等を聞くようにしている。	・利用者との日常会話、家族来訪時、電話連絡、運営推進会議などを通じて意見や要望を把握している。 ・利用者の外出機会を多くする、食事で利用者にお茶を出すタイミングを工夫するなど、具体的な要望を受けて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や個々との面談で、各スタッフの要望や質問、なやみを聞き運営に反映している。	・日常業務、ユニット会議などを通じて職員の意見や提案を把握している。 ・物品補充、記録方法の変更、サービス提供の仕方などで多くの提案があり、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全スタッフの自己評価表を作成し努力や実績、勤務状況を評価できるようなシステム作りを勧める等整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員に法人内外の研修を受ける機会を設け、スキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所連絡会や運営推進会議等で交流する機会を持ちサービスの質を向上させていく取組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前からでも、疑問点等は受付ほん		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の前の段階でも相談事には耳を傾けアドバイスするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話を聞き必要としていることを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、お手伝い等出来る事はお願いします。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の事で、日々の変化は早急に家族と連絡を取り、常に本人、家族、施設の関係を良好なものに築こうとする努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろんの事、昔の知人や友人にも来園して本人と面会や談笑できる場を提供していくことに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や友人の来訪時には、リビングや個室で利用者とゆっくり過ごしてもらっている。</li> <li>・旧職場、思い出の場所、行きつけた食事処などに、職員が付き添って出かけている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクレーションを通じ、各利用者通しでも気軽に会話が楽しめる環境作りを考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談がある場合は支援に努めようとしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとり、ひとりの希望や意向を把握し、対応が可能であれば計画・実行するようにする。	・利用者との日常会話や家族来訪時に情報を得ることで思いや意向を把握している。 ・表出が困難な利用者の場合は、表情や仕草、声の具合から思いを汲み取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に生活歴を記入して頂き、それを基に本人に暮らし方や生活環境を聞きサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各スタッフが、それぞれの利用者の体調の変化や出来事を記録し共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者から情報を有し達成可能な介護計画書を作成している。	・事前に本人、家族から意見を聞き取り、医師のアドバイスを得、モニタリング結果を確認して、毎月開催しているケアカンファレンスで介護計画を作成している。 ・3か月、6か月ごとにケアプランを見直し、家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別に介護記録に記入し、その時の様子や気づきが後でわかるように詳しく記載するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各スタッフが、常に既存のサービスに捉われない柔軟な支援方法を考えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望や意向を尊重し、かかりつけ医から適切な医療を受けられるように支援している。	・提携医療機関を紹介するが、かかりつけ医での受診を支援しており、選択は利用者、家族の意思を優先している。 ・内科医の往診が月2回、歯科医の往診が毎週、看護師訪問も毎週ある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に利用者全員をみてもらい、体調の変化等や本人の訴えには別途連絡し、アドバイスをもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関と連携をとりながら利用者や家族が安心して治療できるよう対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や施設での生活が困難な場合は早めに家族に相談し、対応を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看取りを事業所で行う方針はなく、入居時に本人、家族に説明して了解を得ている。</li> <li>・重度化した場合は、家族、医師、看護師と密に連絡を取り合い、適切に対応する体制にしている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自が研修等で応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在は実施されていないが、今後地域との協力体制を築く予定である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は、今後地域の協力を得て実施する予定である。</li> <li>・災害対策用の食料・水の備蓄は、現在検討中である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の避難訓練は義務化されています。今後具体策を立案して実施することが期待されます。</li> <li>・災害用の食料、水の3日分の備蓄が望まれます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々に話掛けや対応に気をつけ誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけで対応している。</li> <li>・職員は採用時に個人情報について誓約書を提出し、退職後も守秘義務を遵守している。</li> <li>・個人記録は鍵のかかるキャビネットに保管している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴し、自己決定できるようスタッフが支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者のペースで物事をすすめ業務優先にはしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、希望者には訪問理容で気に行った髪型にしてもらったり、衣類もスタッフがアドバイスを送る等その人毎のおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にテーブル拭きや、食器拭き等出来る事はお願いしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業者から献立表と食材を調達し、職員が交代で手作りしている。毎週カレーの日や麺食の日があり、利用者に喜ばれている。</li> <li>・敬老日や雛祭りなど季節の行事食を提供し、誕生会では利用者と一緒にケーキ作りを楽しんでいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各食事ともカロリー数を計算してメニューが決まっており、食事量や水分量はスタッフが管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の力量に応じて、自身で出来る方は行ってもらい、出来ない人はスタッフがお手伝いする。又、希望者は金曜日に訪問歯科の受診を受ける事により現在の口腔状態の把握が出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレチェック表を活用し、個々の利用者のパターンや習慣を活かして自立に向けた支援を行っている。	・排泄表からリズムを把握し、また、利用者のしぐさで尿意を察知し、さりげなくトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレチェック表を活用し、各利用者の排便の状況を確認したり、水分量や食物にも気をつけ便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴チェック表を活用し、なるべく各利用者が均等に入浴出来る機会を設けている。	・入浴は、週2~3回午後の時間帯とし、入浴中は日常会話で寛げるように支援している。 ・入浴を拒む利用者には、時間や職員を変えて、タイミングを逃さないように工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活習慣やパターンを把握し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用し、誤薬や服薬ミスをしないよう日々心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者にあったお手伝いをお願いしたり、レクレーションでも参加を強制せず、その人にあった気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て外出したり、定期的に社用車で出かけるように心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日は車椅子の利用者も一緒に近隣の文学館へ出かけ、季節の草花を眺めて気分転換してる。</li> <li>・ドライブで箱根や花見に出掛け、帰りに外食を楽しむなど、利用者の生活に変化を持たせている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者のおこづかいは基本、事務所で管理し、本人の希望や外出等での費用は家族と相談して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話を頂いたり、手紙を書いて頂き、本人に渡したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔であるよう、スタッフが注意して居心地よく過ごせるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居間は広く明るく清潔で、温・湿度、照明、換気に配慮している。壁面には行事の写真を貼り、生花を飾って季節感を演出している。</li> <li>・家庭的な雰囲気の中で利用者は脳トレやカラオケなど好きなことをしながら談笑している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、テーブルとソファの間隔を広くし、テレビを自由に鑑賞出来るよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は本人や家族の希望を取り入れ落ち着ける住まいになるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馴染みの家具やベッドなどを持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。</li> <li>・安全に配慮して、ベッドから布団にかえた利用者もいる。</li> <li>・部屋の掃除や整理整頓は、利用者職員と一緒にやっている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は障害物等排除し、安全かつ動きやすい環境になるよう工夫している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

うめの木園

作成日

平成27年5月1日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のメンバーに地域の代表が含まれていない。	自治会長や民生委員に声を掛け参加をお願いします。	連絡を取り、会議の目的、内容を伝え具体的な会議日程を事前にお知らせし参加を促す。	1年
2	35	年2回義務化されている避難訓練は予定しているが実施されていない。災害対策用の食糧・水の備蓄も検討中である。	施設の近隣の人にも参加して頂き、最終的には夜間を想定した避難訓練を実施する。	消防署と連絡を取り、まずは施設の避難訓練を実施する。その後近隣の人にも声を掛け参加を促す。災害用の食糧・水の備蓄に関しては3日分早急に対応する。	1年
3					
4					
5					